

## 「夏、本番に向けて感染対策を学ぶ！」

7月の公開研修会は「夏、本番に向けて感染対策を学ぶ！」と題して、御所訪問看護ステーション 横瀬まゆみ看護師を講師に開催致しました。

はじめに、「感染症とは、寄生虫や細菌、真菌（カビなど）ウイルスなどの病原体が人の体内に侵入することで引き起こす疾患のことである。」という説明から、先ず、梅雨の時期から夏にかけて発生しやすい「カビ」による感染症についてお話をさせて頂きました。



カビは、花粉より小さい物質で人は1日1万個以上吸いこんでおり、無害なカビが多いですが、子供や高齢者など免疫の低い人や抵抗力が弱った人にとって有害なカビがあること。そのため、熱や咳、痰が続くようなら、「夏風邪だろう」と軽視せず、感染を疑い早期に受診が必要であること。また、予防は、家の中でカビの発生しやすい場所を把握し、カビを発生させない対策がこの時期に必要なということをお伝えさせて頂きました。

講義の途中では、息抜きとして「人間の生命に危害を及ぼす生き物は何がご存じですか？」と会場に投げかけ、その第1位は蚊であること。そして、ジカ熱、デング熱、マラリア、日本脳炎などの感染症は、蚊が媒介し発症に至りますというお話をさせて頂きました。

次に食中毒について、平成8年に堺市の学校給食発生した集団食中毒で感染した患者が、O-157が要因で引き起こした脳出血により20年後に死亡したニュース映像を視聴し、細菌による食中毒の恐ろしさをあらためて実感させて頂きました。

最後に、横瀬看護師より「感染症を軽視しない・感染しない・感染させない」その意識の大切さをお伝えし、参加者の皆さんと「私たちの生活の身近な場所や身近なものが感染源になる。」「正しい知識を身につけ、予防法を知り、それを実践する。」また「知らない人に伝える。」など心構えを持つことが一番の感染対策であることを共有することができた研修会でした。

